

玉城中学校 平成31（令和元）年度 全国学力・学習状況調査結果概要

2019年4月16日に行われた全国学力・学習状況調査の結果をまとめました。ここでは、全国や三重県のデータと玉城中のデータを見比べて玉城中学校の生徒の状況について分析しました。この分析は三重県、全国と比較して、国語、数学、英語で問われる学力のどこが強みで、どこが弱みか、また、学習状況調査から見えてくるよりよい学習習慣について確認してみました。

1 教科に関する調査結果

(1) 実施した教科

① 国語 ② 数学 ③ 英語 ④ 英語（話すこと）

(2) 本校の結果の概略

本校の平均正答率は、多少の数値の差は見られるものの①国語、②数学、③英語では三重県、全国平均と同等でした。④英語（話すこと）については、全国より低い傾向が見られました。



① 国語の平均正答率のカテゴリー（学習指導要領の領域別、評価の観点別、問題形式別）別に見た比較については、数値としては上回っている項目ばかりでしたが、三重県、全国との有意差はありませんでした。

【国語 強み】

- 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。
- 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。
- 無解答率が低い。

【国語 弱み】

- 特にありませんでした
<強いて挙げるとすれば>
●封筒の書き方を理解して書く。

国語の結果から、文章のとらえ方、そこから読み取れる内容などを的確に答えている生徒の割合が高いことがわかりました。しかし、日常生活の中であまり使われなくなってしまった「封筒の宛名書き」の書き方については、正答率が半数程度となっており、課題が見られました。国語だけでなく、文章を読んだり、書いたりすることの他にその文章をどう解釈するかの能力は日常生活に欠かせない力です。今後ともこの力が伸ばせるように電子媒体だけでなく、紙媒体で日本語に触れる機会を多く持って欲しいと考えます。

② 数学の平均正答率は、観点別の「技能」において三重県、全国より下位の有意差が見られたものの、あとの項目（全10項目中9項目）については、有意差はありませんでした。

【数学 強み】

- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。

【数学 弱み】

- 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
- 平行移動の意味を理解している。
- 反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる。
- 簡単な場合について、確率を求めることができる。
- 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。



数学では、証明過程で論拠を述べる問いについては全国より上位の有意差は見られ、文章を読み取り、知識を生かすことができているようです。逆に「技能」に課題があり、全体的に計算力が不足しているようです。簡単な連立方程式や確率など単純なところでのミスが結果に表れており、基礎的な能力を培うための反復練習（ドリル）や計算力を定着させ、正確な値を得られるための緻密さを身につけることが望まれます。また、表やグラフを読み取ることや数学的な用語の理解についても弱い面が多く、今後、その課題を克服することが必要であると思われます。

③④ 英語のカテゴリー別の平均正答率では、領域別の「話すこと」観点別の「表現」「知識・理解」、形式別の「短答式」「記述式」で、全国、三重県と比較して下位の有意差がありました。（上位の有意差のあるカテゴリーはありませんでした。）

【英語 強み】特に目立った強みは見られませんでした。

【英語 弱み】

- 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ったり、聞いて把握した内容について、適切に応じたりすることができる。
- まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる。
- 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる。
- 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文、否定文を正確に書くことができる。
- ◆基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができる。
- ◆聞いて把握した内容について、やり取りすることができる。 等 ●は③の弱み、◆は④の弱み

英語では、領域別の「聞く」についてはほぼ全国平均に達していましたが、他の「読む」「書く」「話す」領域では全体的に弱い面が多くありました。特に「話すこと」のテストでは、CBT（コンピューターによるテスト）

が初めてで多くの生徒に戸惑いもあったようで、その点でも弱さが出てしまいました。ただ、この調査は4月に行われたものです。その後の指導や生徒の学習の様子を見てみると、「読む、書く、話す、聞く」のすべての力が伸びていることが確認されています。今後とも、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」、「聞くこと」の4つの能力を向上していけるような学習が望まれると考えます。

2 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果

- (1) 質問紙の主な内容 ① 普段の生活習慣に関する質問 ② 学習習慣や地域とのつながりについての質問
③ 教科学習（国語、数学・英語）や学校生活・授業に関する質問 等

(2) 本校の結果から見た強み、弱み

ここでは、調査結果から(1)の①、②、③を中心に本校の強み、弱みを考察します。

<強み> ○毎日、同時刻に起きる。 ○学校に行くのは楽しいと思う。
○読書が好き。 ○外国人に日本の文化を伝えたい。○部活動に積極的に参加する。
○国語の勉強が好き、大切だと思う、内容がよく分かる。○数学は将来、役に立つ
○将来英語に関わる職につきたいと思う。 等

<弱み> ●自尊心が低い。 ●学習時間が少ない。 ●失敗を恐れて、すぐにあきらめてしまう。
●計画的な学習ができない。 ●英語が苦手 等



1) 強みについて

規則正しい生活習慣は、健康的な生活を営むための基本です。「毎日、同じ時間に起きてきちんと学校に行ける」という当たり前のことが、今後生きていく上での大きな力のなると思います。また、「好きこそ物の上手なれ」というように「国語が好き」であるという生徒が多く、その成果が、学力調査の結果にも表れているようです。また、数学の学力調査結果は平均的でしたが、「数学は将来役に立つ」と感じている生徒は全体の8割を超える生徒が肯定的に答えており、今後の伸びが期待できるかと思われます。本年度の学力調査から取り入れられた「英語」に関する質問紙調査結果から、将来的に英語を使うような職に就きたいという生徒が過半数を超えており、英語についても数学同様、今後の伸びが期待されます。

2) 弱みについて

「自分には良いところがある」に肯定的に回答している生徒の割合は、県、全国に比べて低くなっており、自尊心の低さがうかがえます。「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」に肯定的に回答している生徒の割合も比較的低く、「あきらめが早い」「粘り強さが無い」傾向が見られます。このことが、「学習時間が少ない」傾向と結びついているようで、平均学習時間は、三重県、全国の平均の9割しかありません。

今後、一層の国際化が進み、「英語」に関する力は着実に付けていかなければなりません。このことは、すでに「英語」が小学校段階で実施されていることから見ても明らかです。そういう意味でも、今後さらなる英語力の向上が望まれます。

また、弱みとまでは言えませんが、調査項目の中で、ICTを活用した授業経験についての項目がありますが、本校生徒はその必要性を十分認識していない生徒の割合が高くなっています。将来的にICTは必要不可欠なものとなり、それを有効活用できる力も、AIが台頭していくと予想される社会ではなくてはならないものです。

(3) 学力調査結果と質問紙項目との相関関係から

学力調査の結果と質問紙項目の相関関係を見てみると、国語、数学、英語の正答率に関しては「家で学校の話をする」「図書館によく行く」「読書が好き」「課題解決に自ら進んで取り組む」とことと相関関係があることが明らかになりました。また、英語については「学習時間」が長いほど、正答率が高い傾向があることも分かりました。

<今後の方向性>

この調査は4月に行われたもので、今の状況は少し違ってきているとは思いますが、学校では、この結果をふまえて今後の指導に活かしていきたいと考えています。学習面では、基礎・基本を大切にしていきたいと思っております。具体的には簡単に達成できる課題をいくつも与えたり、(時間の許す限り)物事を考える時間、課題に取り組む時間を保障したりするようにしたいと考えています。また、「教えられる」ことを中心とした学習場面だけでなく、「自ら考える」「互いの学びや知識・技能を共有する」といった学習を取り入れることで学びの定着や発展につなげ、子どもたちが未来を生きていくために身につける必要がある学習スキル、生活スキルを獲得してほしいと考えています。さらにまた、「学習の有用性」は認識している生徒が多いことから、学習時間を確保して物事にじっくり取り組む姿勢を身につけていく指導については、学校だけでなく、ご家庭での声掛けをよろしくお願いします。まもなく、3年生は受験という大きな局面を迎えることとなります。そういう意味でも「有効な時間の使い方」について考えることを促したいと思います。